60吋コアー採取試錐機
驚嘆すべき大ボーリング

大震災に遭つた石の大鳥居？のやうに見えるこの寫眞は米國インガーソルランド會社が、最初ボウルダー・ダムの混凝土試驗材を採取する目的で製作し、次で炭坑等の通風竪坑開鑿に利用せらゝ樣になつた60吋コアー採取試錐機によりて採られたコアーの偉觀を示すものである。

地下の寶庫を探る試錐機にも次から次へと新らしい使命が課せられ來た、從來のダイヤモンド試錐機では精々2吋乃至3吋位のコアー抽出が關の山であつたが、インガーソルランド會社がカリツクス機を作つてから10吋はおろか20吋のコアーも容易に採取し得る樣になり地質調査の領域から、ダムの混凝土强度試驗には勿論各種混凝土構造物の試驗材採取または根掘採等一般土木方面に進出するに至り、更に36吋のコアー機が出現してスレート工業界に貢献する處重大であつたが、更に驚く可きことには60吋コアー用 1, 00 呎機が生れ、炭坑の通風竪坑開鑿に一新紀元を劃し、遂に貴重なる人命の保護と寶庫の開發に新らしい道を拓くに至つた。將に試錐機から掘下機への一大躍進である。

本機は上の寫眞に示す如く櫓作業式で125馬力の電動機で運轉し別に25馬力のコアー捲揚機がついてゐる。掘進記錄は硬岩に對し掘進毎實時當り10吋乃至20吋平均で最近のニユースでは豫定深度1,130呎の掘下げに對し既に 1,074 呎の開鑿を了へ餘すところ僅々60呎と云はれてゐる、次頁上の寫眞はダムから採取された60吋直徑コアー（コンクリート）の偉觀，下は炭層を示すコアーの斷片である。

直徑60吋コアーの偉觀